

# Financial Report 2014

OSAKA CITY UNIVERSITY

平成26年度 財務報告書  
公立大学法人 大阪市立大学



# 目次

・ 理事長 ごあいさつ	2
・ 公立大学法人における会計制度	3
・ 貸借対照表（概要）	5
・ 損益計算書（概要）	6
・ 貸借対照表（要約）	7
・ 損益計算書（要約）大学	8
・ 損益計算書（要約）病院	9
・ キャッシュ・フロー計算書（要約）	10
・ 行政サービス実施コスト計算書（要約）	10
・ 大阪市立大学の取組み	11
・ 第二期中期計画 重点三戦略の取組み Ⅰ 都市大阪のシンクタンク、「都市科学」分野の教育・研究・社会貢献	13
・ 第二期中期計画 重点三戦略の取組み Ⅱ 専門性の高い社会人の育成	14
・ 第二期中期計画 重点三戦略の取組み Ⅲ 国際力の強化	15
・ 教育分野での取組み	16
・ 研究分野での取組み	17
・ 地域貢献分野での取組み	18
・ 医療分野での取組み	19

※ 5ページから10ページの財務諸表に関する数値については、端数処理の関係上、合計において一致しない場合があります。

# 理事長 ごあいさつ

大阪市立大学は、我が国最初の市立の大学で、2015年に創立135年を迎えました。日本最大規模の公立大学で、大阪市内に位置する唯一の総合大学です。

前身の大阪商科大学の開学にあたって、当時の大阪市長 關一は、「都市・大阪を背景とした学問の創造」をめざす大学として「国立大学のコピー（コピー）であってはならぬ」と述べました。この言葉は現在も本学の建学の精神として脈々と引き継がれています。



本学の理論物理学のグループを立ち上げた南部陽一郎名誉教授が2008年にノーベル物理学賞を受賞されました。また、2012年には、医学研究科出身の山中伸弥教授がiPS細胞のご研究によりノーベル生理学・医学賞を受賞したことは、記憶に新しいところです。

このように本学は進取の気風あふれる建学の精神のもと、社会で指導的役割を果たす人材を育成し、国際的にして自由で独創的な研究水準を誇ってきました。本学の教育における目標は、専門知識と総合的知識の両方面から物事を思索し、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力および品性を兼ね備えた全人的人材、高度専門的あるいは幅広い職業人として社会に貢献できる人材を養成することです。

この財務報告書は、平成26年度決算を踏まえ、本学の状況を主に財務面を通してご理解いただきますことを目的として作成しました。本法人を取り巻く環境は年々厳しさを増しておりますが、引き続き温かいご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

公立大学法人大阪市立大学 理事長 西澤良記

# 公立大学法人における会計制度

## 公立大学法人の会計基準とは、どのようなものですか？

公立大学法人は、「地方独立行政法人法」および「地方独立行政法人会計基準」に基づき、毎事業年度ごとに、貸借対照表、損益計算書などの財務諸表を複式簿記、発生主義により作成しております。

### 貸借対照表とは

貸借対照表は、期末時点（3月31日）における財政状態を明らかにするための書類です。大阪市立大学の持つすべての資産、負債および純資産を記載しています。

P.7貸借対照表

### 損益計算書とは

損益計算書は、一会計期間（4月1日から3月31日）に属するすべての費用と収益を記載した書類です。公立大学法人は、企業会計のように経営成績を示すためではなく、利益の獲得を目的とせず「損益均衡の原理」を基本としており、運営状況を明らかにすることを目的としています。

P.8 P.9損益計算書

### キャッシュ・フロー計算書とは

キャッシュ・フロー計算書とは、一会計期間における、資金収支の状況を活動区分別に表示して、大阪市立大学の活動内容を資金の流れから表したもので、業務活動、投資活動、財務活動の3つに区分しています。

P.10キャッシュ・フロー計算書

### 行政サービス実施コスト計算書とは

行政サービス実施コスト計算書とは、皆さまに負担いただいておりますコストを表した書類です。損益計算書に計上されない減価償却相当額や引当外退職給付見積額、大阪市の財産や出資などを使用することから生じる機会費用等を含めて表示しています。

P.10行政サービス実施コスト計算書

## 公立大学法人会計の特色について説明します。

地方独立行政法人会計基準は企業会計に準じていますが、公立大学法人は公共的な性格を有し、主たる事業が教育研究であることを踏まえ、利益の獲得を目的としないため、企業会計にはない以下のような特有の処理を行っております。

### 損益均衡

公立大学法人の主たる事業は教育研究であり、利益の獲得を目的としないため、計画通り業務を行えば、損益が均衡するように、固定資産を取得した際には、同額を将来支払うべき費用（減価償却費）の準備として負債科目（資産見返負債）に積み立て、耐用年数に応じ、毎年、減価償却費に見合うよう、それと同金額取崩し収益（資産見返負債戻入）とすることで、損益に影響を及ぼさないように処理しています。

### 損益外減価償却

法人設立時に出資された固定資産等の減価償却は、その減価に対応すべき収益の獲得が予定されるものではなく、その資産価値の減少は、公立大学法人の運営責任の範囲外にあると考え、損益上の費用ではなく、資本の減少と考えて資本剰余金から減額します。

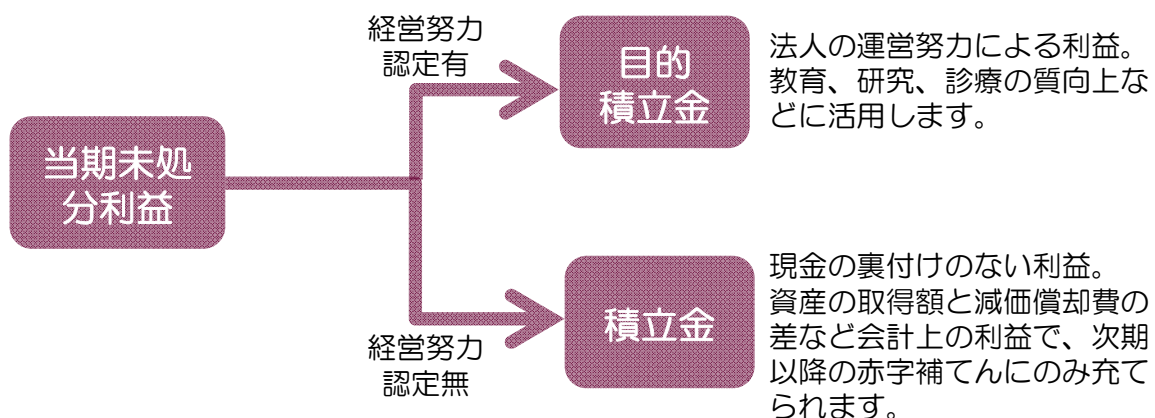
この資産価値の減少である「損益外減価償却累計額」として、284億円計上しており、これに対する施設整備費は、設立団体から予算措置されることが前提のため法人として引当金の計上は会計上難しく、施設整備費補助金の予算措置は設立団体の財政状況に大きく左右されるため、目的積立金を施設整備に充てる必要があります。

### 引当外退職給付見積額

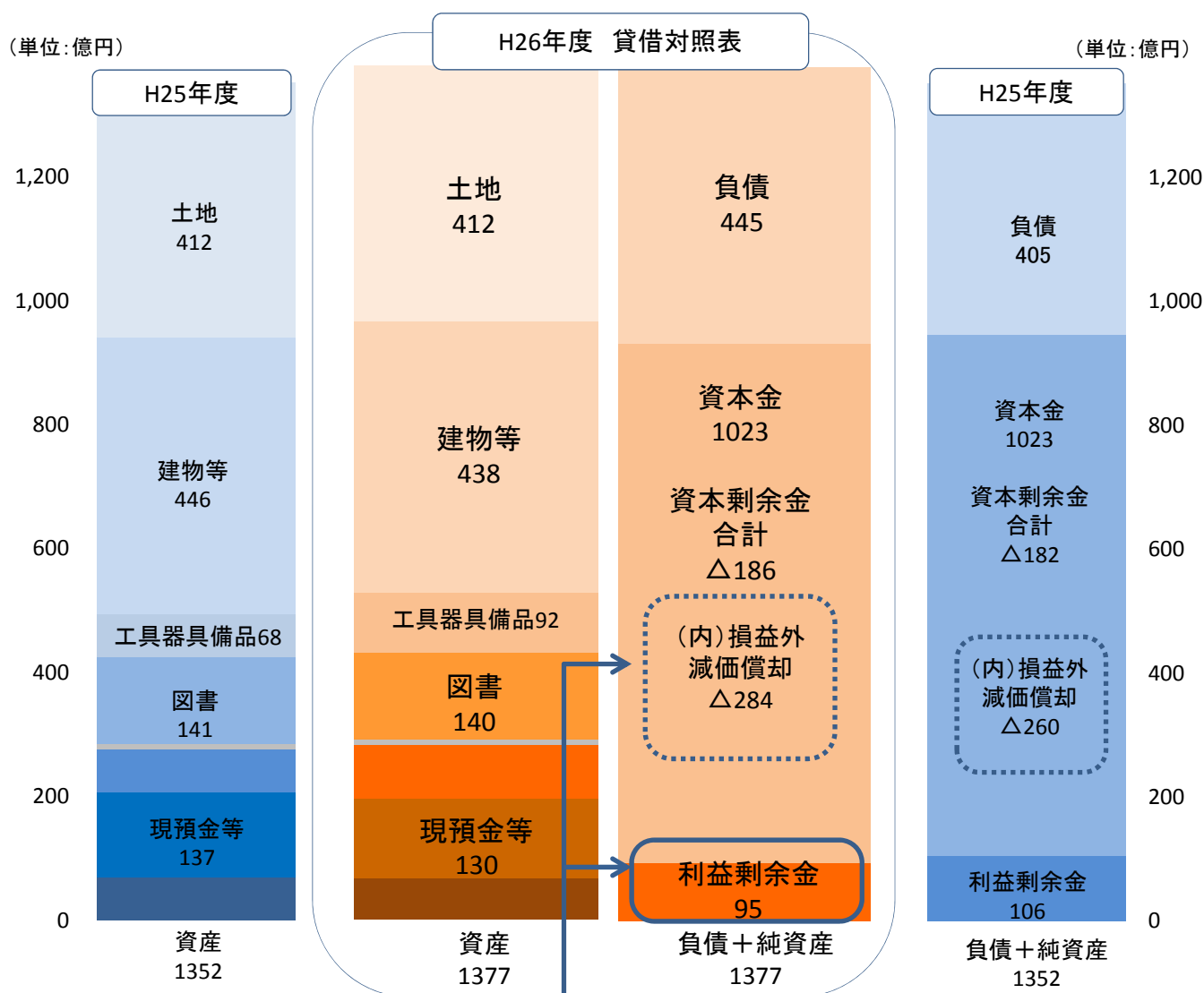
公立大学法人は設立団体から退職給付の財源が予算措置されることが明らかに見込まれる場合は、企業会計で行っている引当金を計上しないこととされております。この場合、引当外となった退職給付及び賞与については、「引当外退職給付見積額」として貸借対照表の注記において表示することとされております。

本学においては、大阪市からの財源措置が明らかに見込まれておりますので、引当金を計上せず、「引当外退職給付見積額」として、127億円（大阪市からの派遣職員分24億円を含む）を表示しております。

### 公立大学法人における利益



# 貸借対照表（概要）



## 利益剰余金

現金の裏付けあり（法人の経営努力による利益） 58億円

特定償却資産の施設整備や教育、研究、診療の質向上などに充てられる

	大学	病院
目的積立金(残高)	18億円	38億円
+ 当期利益	4億円	△2億円

現金の裏付けなし（会計上のみの利益） 37億円

次期以降の会計上の損失があった場合の相殺にのみ充てられる

	大学	病院
積立金(残高)	1億円	36億円
+ 当期利益	0億円	0億円

## 損益外減価償却 △284億円

特定償却資産の減価償却費は、損益外減価償却費に計上される。これに対する施設整備費は、設立団体から予算措置されることが前提のため、法人として引当金を積立ることが難しいが、予算措置は、設立団体の財政状況に左右される。この為、利益剰余金を充当する事が想定される。

## 施設整備 20億円

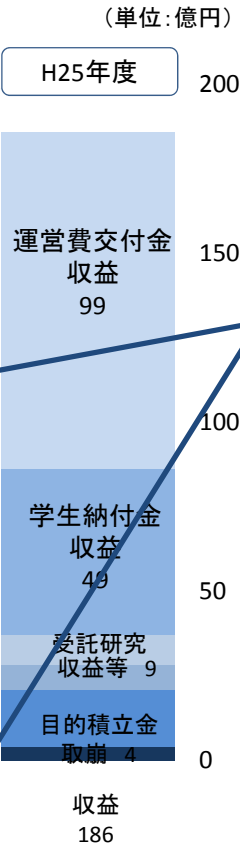
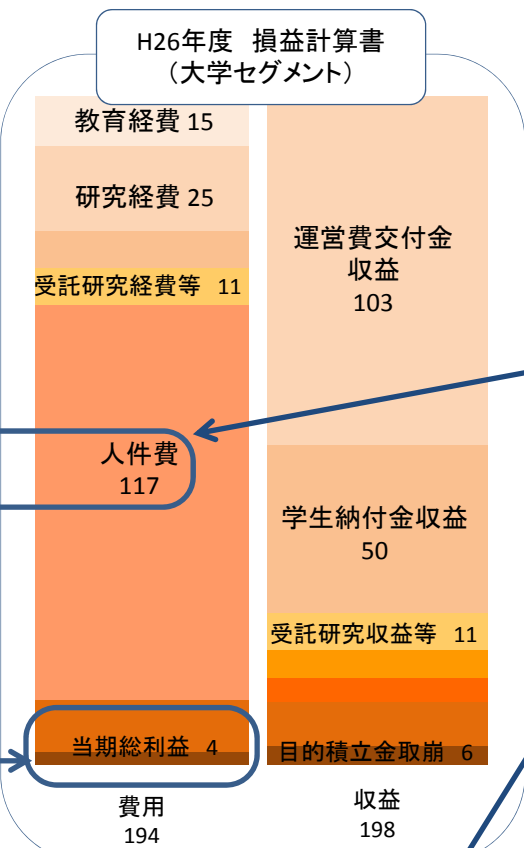
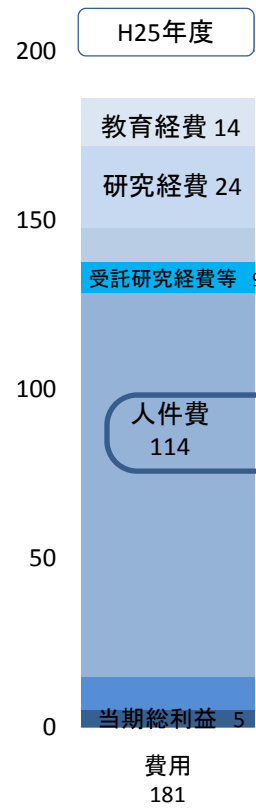
大阪市からの施設整備費補助金に加え目的積立金を活用し、遅れている施設の整備、改修を実施。  
固定資産 資本剰余金 +20億円

（主な資産）

理系学舎第3期整備	14億円
工学部B棟耐震改修	0.6億円
工学部C棟空調設備改修	0.6億円

# 損益計算書（概要）

(単位:億円)



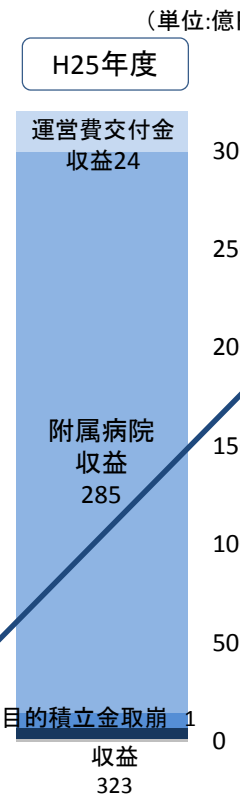
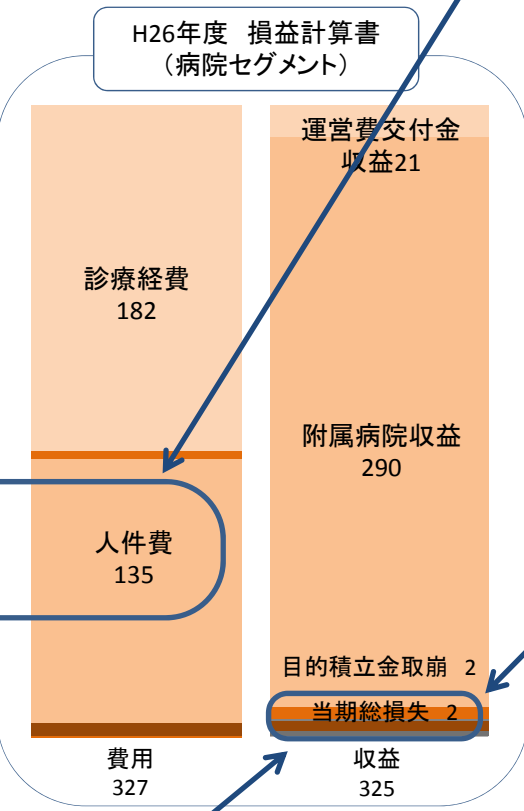
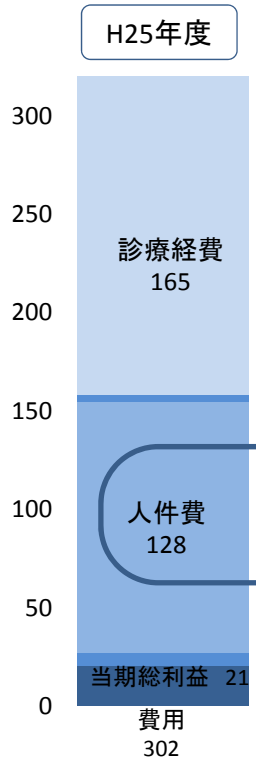
**人件費の増 10億円**

- ・大学セグメント 3億円
- ・病院セグメント 7億円

〈主な要因〉

- ・賞与の増
- ・退職者の増による退職者手当の増
- ・附属病院及びMedCity21の人員増による増

(単位:億円)



**附属病院当期総利益 △2億円**  
(H25 21億円)

- ・本院 0.8億円
- ・MedCity21 △2.4億円

**当期総利益 (H25 26億円)**

大学セグメント	4億円 (H25 5億円)
病院セグメント	△2億円 (H25 21億円)

# 貸借対照表（要約）

(億円)

		H25年度	H26年度	前年度比	
<b>資産の部</b>		1,352	<b>1,377</b>	25	102%
固定資産		1,146	<b>1,182</b>	36	103%
有形固定資産		1,068	<b>1,087</b>	19	102%
土地		412	<b>412</b>	0	100%
建物・構築物・機械装置		445	<b>438</b>	△7	98%
工具器具備品		68	<b>92</b>	24	135%
図書		141	<b>140</b>	△1	99%
その他		2	<b>5</b>	3	250%
無形固定資産		8	<b>9</b>	1	113%
ソフトウェア		3	<b>9</b>	6	304%
その他		5	<b>0</b>	△5	15%
投資その他の資産		70	<b>86</b>	16	122%
投資有価証券		16	<b>12</b>	△4	75%
未収財源措置予定額		50	<b>70</b>	20	140%
金銭信託		4	<b>4</b>	0	105%
その他		1	<b>0</b>	△1	0%
流動資産		206	<b>195</b>	△11	94%
現金および預金		137	<b>130</b>	△7	95%
未収附属病院収入		50	<b>54</b>	3	107%
その他未収入金		7	<b>4</b>	△3	56%
有価証券		8	<b>3</b>	△5	38%
その他		4	<b>4</b>	0	105%
<b>負債の部</b>		405	<b>445</b>	40	110%
固定負債		289	<b>330</b>	41	114%
資産見返負債		171	<b>173</b>	2	101%
長期寄附金債務		35	<b>33</b>	△2	94%
長期借入金		22	<b>26</b>	4	118%
長期未払金		52	<b>72</b>	20	138%
長期リース債務		8	<b>25</b>	17	313%
資産除去債務		1	<b>1</b>	0	83%
流動負債		116	<b>115</b>	△1	99%
運営費交付金債務		8	<b>8</b>	0	100%
寄附金債務		19	<b>20</b>	1	105%
前受受託研究費等		3	<b>2</b>	△1	67%
前受受託事業費等		7	<b>7</b>	0	100%
一年以内返済予定長期借入金		6	<b>7</b>	1	117%
未払金		67	<b>58</b>	△9	87%
リース債務		2	<b>8</b>	6	400%
預り科学研究費補助金等		3	<b>2</b>	△1	71%
預り金		2	<b>2</b>	0	123%
その他		0	<b>1</b>	0	5000%
<b>純資産の部</b>		947	<b>932</b>	△15	98%
資本金		1,023	<b>1,023</b>	0	100%
資本剰余金		△182	<b>△186</b>	△4	102%
資本剰余金		78	<b>98</b>	20	126%
損益外減価償却累計額		△260	<b>△284</b>	△24	109%
利益剰余金		106	<b>95</b>	△11	90%
前中期目標期間繰越積立金		52	<b>39</b>	△13	75%
目的積立金		24	<b>44</b>	20	183%
積立金		4	<b>10</b>	6	250%
当期末処分利益		26	<b>2</b>	△24	8%

理系学舎  
減価償却 + 12.4億円  
△24.3億円

病院情報システム機器 + 24.6億円  
医療機器 + 9.5億円  
教育研究用  
情報処理システム + 3.1億円  
減価償却 △21.5億円

病院情報システム + 6.7億円

理系学舎整備 + 19.8億円

「資産見返負債」  
運営費交付金、授業料、補助金、  
寄附金等を財源として資産購入  
した場合は収入時に収益化せず  
一旦固定負債として計上し、減  
価償却時に、資産見返戻入として  
収益化する

病院による市からの借入金残高

理系学舎整備 + 19.9億円

病院情報システム機器 + 16.6億円

理系学舎 + 14.3億円  
病院情報システム + 2.4億円

25年度 +105.9億円  
26年度利益 + 2.1億円  
26年度使用 △13.5億円



# 損益計算書（要約） 大学

(億円)

総費用	H25年度	H26年度	前年度比
総費用	180.7	194.1	13.4
経常費用	179.3	186.4	7.1
業務費	171.1	178.3	7.2
教育経費	14.1	14.6	0.5
研究経費	24.2	25.0	0.8
教育研究支援経費	10.1	11.0	0.9
受託研究費等	8.9	11.1	2.2
人件費	113.8	116.6	2.8
一般管理費	8.0	7.2	△0.8
財務費用	0.1	0.7	0.6
雑損	0.1	0.2	0.1
臨時損失	1.4	7.7	6.3

人件費の増加 +2.8億円  
教員 +2.3億円、職員 +0.5億円

臨時損失の増加 +6.3億円  
理系学舎整備事業による  
移設撤去費の増 +5.4億円

総収益	H25年度	H26年度	前年度比
総収益	185.9	197.9	12.0
経常収益	180.5	187.4	6.9
運営費交付金収益	99.5	103.1	3.6
学生納付金収益	49.2	49.7	0.5
受託研究等収益	9.0	11.1	2.1
補助金等収益	2.8	3.2	0.4
施設費収益	1.5	0.0	△1.5
寄附金等収益	7.3	8.1	0.8
資産見返負債戻入	6.2	7.1	0.9
財務収益	0.2	0.2	0.0
雑益	5.0	4.9	△0.1
臨時利益	1.4	4.8	3.4
目的積立金取崩額	4.0	5.7	1.7

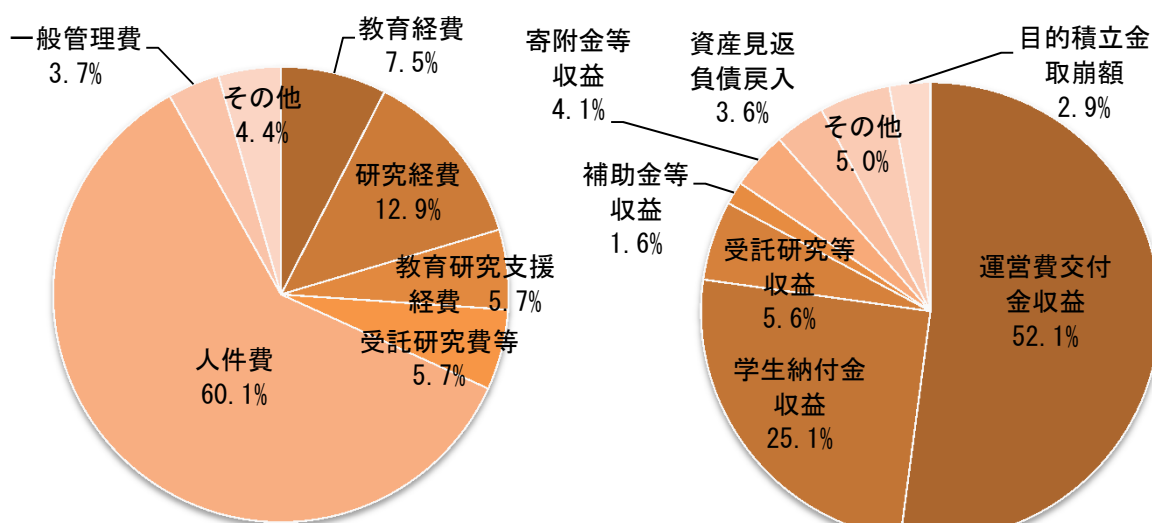
運営費交付金収益  
の増加 +3.6億円  
退職手当の増 +4.1億円

臨時利益の増加 +3.4億円  
理系学舎整備事業による  
施設費収益の増 +3.4億円

目的積立金を財源とした費用は、  
経常、臨時であるが、見合いの  
収益は経常、臨時ではなく、目的  
積立金取崩として独立計上している

経常利益	1.2	1.0	△0.2
------	-----	-----	------

当期総利益	5.2	3.8	△1.4
-------	-----	-----	------



# 損益計算書（要約） 病院

(億円)

## 診療経費の増加 +17.2億円

- ・医薬品費の増
- ・診療材料費の増
- ・減価償却費の増

## 人件費の増加 +7.0億円

- ・看護師の増員等による人件費の増
- ・MedCity21開設に伴う人件費の増

## 附属病院収益の増加 +4.5億円

- 入院収益 △0.9億円
  - ・本院 入院患者数の減  
286,499人→267,686人  
(△18,813人)

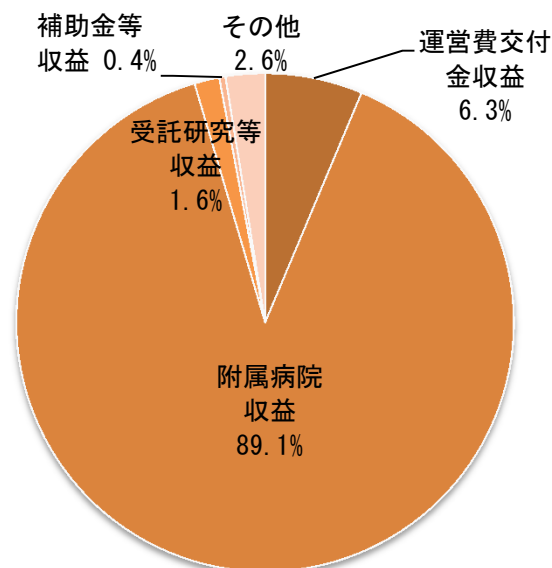
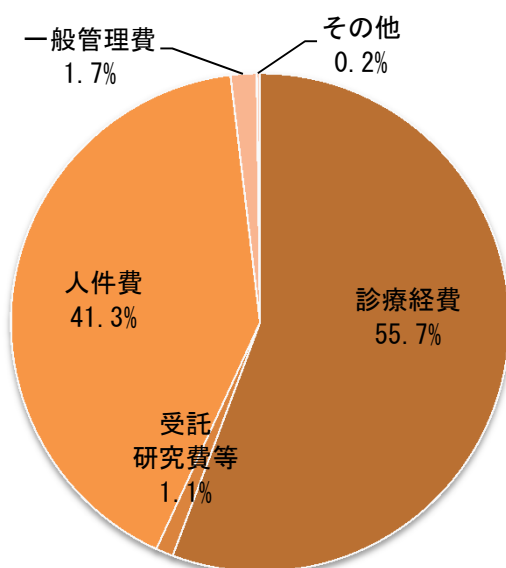
- 外来収益 +5.4億円
  - ・本院 1人当たり単価の増  
17,119円→18,847円  
(+1,728円)
  - ・MedCity21開設に伴う収入の増

	H25年度	H26年度	前年度比
総費用	302.5	<b>326.5</b>	24.0
経常費用	302.5	<b>326.5</b>	24.0
業務費	296.4	<b>320.5</b>	24.1
教育経費	0.4	<b>0.3</b>	△0.1
診療経費	164.6	<b>181.8</b>	17.2
教育研究支援経費	0.0	<b>0.0</b>	0.0
受託研究費等	3.6	<b>3.7</b>	0.1
人件費	127.7	<b>134.7</b>	7.0
一般管理費	5.8	<b>5.5</b>	△0.3
財務費用	0.3	<b>0.4</b>	0.1
雑損	0.0	<b>0.1</b>	0.1
臨時損失	0.0	<b>0.0</b>	0.0

	H25年度	H26年度	前年度比
総収益	322.9	<b>324.9</b>	2.0
経常収益	321.9	<b>322.6</b>	0.7
運営費交付金収益	23.7	<b>20.6</b>	△3.1
附属病院収益	284.9	<b>289.4</b>	4.5
受託研究等収益	5.6	<b>5.3</b>	△0.3
補助金等収益	1.6	<b>1.3</b>	△0.3
寄附金等収益	0.0	<b>0.0</b>	0.0
資産見返負債戻入	0.6	<b>0.6</b>	0.0
財務収益	0.0	<b>0.0</b>	0.0
雑益	5.3	<b>5.4</b>	0.1
臨時利益	0.0	<b>0.0</b>	0.0
目的積立金取崩額	1.1	<b>2.3</b>	1.2

経常利益	19.4	<b>△3.9</b>	△23.3
------	------	-------------	-------

当期総利益	20.5	<b>△1.6</b>	△22.1
-------	------	-------------	-------



# キャッシュ・フロー計算書（要約）

(億円)

キャッシュ・フロー計算書	H25年度	H26年度	前年度比
業務活動によるCF	41.2	18.7	△ 22.4
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 199.9	△ 220.7	△ 20.7
人件費支出	△ 246.1	△ 251.8	△ 5.7
その他の業務支出	△ 12.9	△ 11.0	1.9
運営費交付金収入	127.8	123.9	△ 3.9
学生納付金収入	49.9	49.3	△ 0.6
附属病院収入	284.1	285.9	1.8
外部資金収入	31.7	32.8	1.1
その他の業務収入など	6.6	10.3	3.7
投資活動によるCF	△ 30.4	△ 26.7	3.7
有価証券の取得による支出	△ 100.0	0.0	100.0
有価証券の償還による収入	110.0	1.2	△ 108.7
有形固定資産の取得による支出	△ 32.2	△ 31.1	1.1
無形固定資産の取得による支出	△ 1.9	△ 7.3	△ 5.4
定期預金等の預入による支出	△ 125.0	△ 205.0	△ 80.0
定期預金等の払戻による収入	108.0	205.0	97.0
金銭信託の払戻による収入	0.0	8.0	8.0
施設費による収入	10.9	1.6	△ 9.3
差入敷金・保証金の差入による支出	△ 0.6	0.0	0.6
その他	0.4	0.9	0.5
財務活動によるCF	3.3	1.2	△ 2.1
資金増減額	14.1	△ 6.8	△ 20.9
資金期首残高	57.6	71.7	14.1
資金期末残高	71.7	64.9	△ 6.8
現金及び預金	136.7	129.9	△ 6.8
定期預金	65.0	65.0	0.0

## 「業務活動」

教育・研究・診療などの通常業務の実施に伴う資金の出入りを表している

## 「投資活動」

固定資産取得や売却、基金・余裕資金運用などの投資活動に伴う資金の出入りを表している

## 「財務活動」

借入金による資金の調達や返済などの財務活動に伴う資金の出入りを表している

貸借対照表流動資産の現金及び預金から定期預金分を引くと、64.9億円となり、資金期末残高と一致する

# 行政サービス実施コスト計算書（要約）

(億円)

	H25年度	H26年度	前年度比
業務費用	115.4	144.9	29.5
損益計算書上の費用	483.1	520.6	37.5
業務費	467.4	498.8	31.4
一般管理費	13.8	12.7	△ 1.1
財務費用	0.5	1.2	0.7
雑損	0.1	0.2	0.1
臨時損失	1.4	7.7	6.3
自己収入等	△ 367.7	△ 375.7	△ 8.0
学生納付金収益	△ 49.2	△ 49.7	△ 0.5
附属病院収益	△ 284.8	△ 289.4	△ 4.6
受託研究等収益など	△ 14.7	△ 16.4	△ 1.7
寄附金収益	△ 7.3	△ 8.0	△ 0.7
財務収益	△ 0.2	△ 0.2	0.0
雑益	△ 7.2	△ 7.4	△ 0.2
資産見返運営費交付金等戻入	△ 2.3	△ 2.4	△ 0.1
資産見返寄附金戻入	△ 2.0	△ 2.2	△ 0.2
損益外減価償却相当額	21.5	23.4	1.9
損益外減損損失相当額	0.0	0.0	0.0
損益外利息費用相当額	0.0	0.0	0.0
損益外除売却差額相当額	0.0	0.2	0.2
引当外賞与増加見積額	0.4	1.1	0.7
引当外退職給付増加見積額	△ 21.0	△ 0.6	20.4
機会費用	5.8	3.8	△ 2.0
使用料等による機会費用	0.5	0.5	0.0
大阪市出資等の機会費用	5.2	3.3	△ 1.9
行政サービス実施コスト	122.1	172.8	50.7

## 「市からの財源で賄われているコスト」

PLの費用から、学生納付金や診療収益等の自己収入を差し引いたもの

## 「損益計算書に計上されないコスト」

市から出資された資産等の減価償却や除却損失及び一部退職手当等の制度上費用に反映されない負担相当額

## 「免除もしくは軽減されているコスト」

市等の資産利用に関して、公立大学法人ゆえに優遇された相当額

運営費交付金収益は123億であるが、市民の皆様にご負担いただいているコストは172億円

# 大阪市立大学の取組み

大阪市立大学は  
皆様に支えられて活動を行っています。  
これからも、皆様からのご支援に対する説明責任を果たしながら、

「大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある」

を開設以来の理念として、

また、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき、

教育・研究・地域貢献・医療を目指します。



智・仁・勇の三女神像

# 大阪市立大学の概要

## 主な沿革

1880年（明治13年）	大阪商業講習所	設立
1928年（昭和3年）	大阪商科大学	創立
1949年（昭和24年）	大阪市立大学	創立



設置学部等	商学部/経営学研究科 経済学部/経済学研究科 法学部/法学研究科 文学部/文学研究科 理学部/理学研究科 工学部/工学研究科 医学部医学科/医学研究科 医学部看護学科/看護学研究科 生活科学部/生活科学研究科 創造都市研究科 医学部附属病院	学生数	8,386人	
		教員数	716人	
		職員数	杉本他	176人
			阿倍野	1,221人
校地面積	杉本他	527,450㎡		
	阿倍野	30,756㎡		
キャンパス	杉本、阿倍野	施設面積	杉本他	197,610㎡
サテライト他	梅田 理学部附属植物園（交野市）		阿倍野	171,114㎡

## 各種ランキング

大学の取り組みに対して、国内、アジアでは国立大学の基幹大学に迫る水準として評価されており、公立大学では最上位にランキングしております。

「世界大学学術ランキング 2014」  
401～500位(国内15位)

	大学
21	東京大学
26	京都大学
78	大阪大学
101 ～ 150	北海道大学
	名古屋大学
151 ～ 200	東北大学
	九州大学
201 ～ 300	東京工業大学
	神戸大学
301 ～ 400	筑波大学
	千葉大学
	広島大学
	慶應義塾大学☆
401 ～ 500	東京医科歯科大学
	金沢大学
	岡山大学
	<b>大阪市立大学★</b>
	東京理科大学☆
	早稲田大学☆

Academic Ranking of World Universities 抜粋

「QS University Rankings: Asia 2014」  
90位(国内18位)

	大学
10	東京大学
12	京都大学
13	大阪大学
15	東京工業大学
18	東北大学
20	名古屋大学
23	北海道大学
24	九州大学
34	筑波大学
35	慶應義塾大学☆
43	神戸大学
44	早稲田大学☆
47	広島大学
61	東京医科歯科大学
62	千葉大学
67	金沢大学
88	岡山大学
<b>90</b>	<b>大阪市立大学★</b>
94	首都大学東京★
96	東京農工大学

QS University Rankings: Asia 2014 抜粋

「Times Higher Education アジア大学ランキング」  
71位(国内14位)

	大学
1	東京大学
7	京都大学
13	東京工業大学
15	大阪大学
16	東北大学
27	首都大学東京★
29	名古屋大学
39	東京医科歯科大学
42	筑波大学
48	北海道大学
50	九州大学
63	順天堂大学☆
64	早稲田大学☆
<b>71</b>	<b>大阪市立大学★</b>
72	慶應義塾大学☆
74	広島大学
88	神戸大学
94	岡山大学
96	金沢大学
98	千葉大学

Times Higher Education Asia 2013-2014 抜粋

「全国大学の地域貢献度ランキング」  
6位

	大学
1	信州大学
2	群馬大学
3	宇都宮大学
4	岩手大学
5	長崎大学
<b>6</b>	<b>大阪市立大学★</b>
7	北九州市立大学★
8	豊橋技術科学大学
9	徳島大学
10	長野大学☆
11	立命館大学☆
12	兵庫県立大学★
13	横浜市立大学★
14	茨城大学
15	名古屋大学
16	神戸大学
17	松本大学☆
18	鳥取大学
19	静岡大学
19	山口大学

日経グローバル257号 2014.12.1抜粋

★：公立大学 ☆：私立大学 記号無：国立大学

# 第二期中期計画 重点三戦略の取組み

## I 都市大阪のシンクタンク、「都市科学」分野の教育・研究・社会貢献

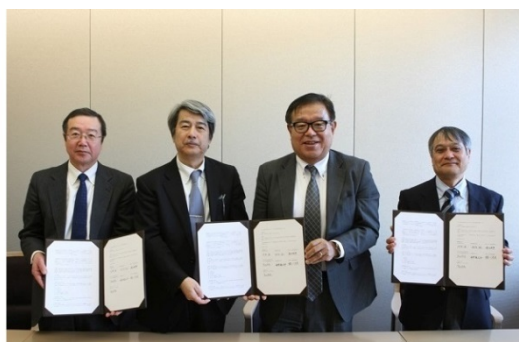
### 理化学研究所・慶應義塾大学と連携・協力協定の締結

健康科学イノベーションセンターは、平成27年2月16日、理化学研究所のライフサイエンス技術基盤研究センター、光量子工学研究領域、情報基盤センター及び慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）の総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科と、高齢者の健康増進を図り、自立支援を推進する社会の構築に向けた連携・協力をを行うことに合意し、協定を締結しました。

本協定の目的は、先駆的な研究成果に基づく社会実装プログラムの創生と実証・実践により、健康増進・高齢者自立支援社会の構築を推進することにあります。特に健康情報ビッグデータに関する課題を解決するため、相互の人材交流、共同研究、人材育成等の連携・協力等を行います。

参画する機関はこれまで、疾患の発症を予測するための早期シグナル検出技術の開発やその小型測定装置の開発、一般市民参加型の検診研究、ビッグデータ解析技術の開発、ICT（情報通信技術）基盤の構築等に取り組んできました。

本協定の締結により、これらの活動をさらに発展させることとなります。



### 都市防災教育研究センターの開設

平成23年3月11日の東日本大震災以降、本学は直ちに都市防災研究プロジェクトを立ち上げ、医学、看護学、生活科学、理学、工学、経営学、経済学、法学、文学、創造都市の10研究科、および都市研究プラザ、都市健康・スポーツ研究センター、複合先端研究機構を含めた全学的な文理融合の組織で、被災地支援および防災研究、防災教育を推進してきました。その約4年間の成果を踏まえ、平成27年3月1日に都市防災教育研究センターを設立しました。



都市防災教育研究センターでは、東日本大震災後の新たな防災の仕組みとして、都市大阪を基盤にした「いのちを守る都市づくり」による災害知の社会実装を展開します。いのちを守ることを第一義にして、都市の災害リスクを精緻に評価して適切な避難や災害対応につなげる防災リーダーを育成するとともに、防災拠点の計画・整備を通して、自助・共助による確かな防災力の向上をはかります。国内外の防災センター等と連携しながら、広域複合災害に向けて、最新の災害研究、情報技術、都市科学を踏まえた新しいコミュニティ防災システムの確立をめざします。

また、平成27年3月21日に、都市防災教育研究センター設立記念「いのちを守る都市づくり 地域防災フォーラム2015」を開催しました。

# 第二期中期計画 重点三戦略の取組み

## Ⅱ 専門性の高い社会人の育成

### 公立三大学共催「インタラクティブ・マッチング」を開催

本学、兵庫県立大学、大阪府立大学の公立3大学は、平成26年7月25日、8月22日、11月14日にグランフロント大阪において、企業と博士人材の交流会「インタラクティブ・マッチング（IM）」を開催しました。

本イベントは、文部科学省 科学技術人材育成費補助金によるポストドクター・キャリア開発事業「公立3大学 産業牽引型ドクター育成プログラム」の一環として、平成24年度より3大学が共同実施しているものです。

この交流会では、高度な専門能力を持つ若手博士人材が、専門分野以外の方にも価値を理解いただけるよう、専門用語をなるべく使わずに発表しました。企業の皆様にとっては、社内での活躍が期待できる高度人材の発掘の場にもなっています。



### テニュアトラック若手人材育成事業

平成26年12月3日に、第1回「大阪市立大学 テニュアトラック教員 研究発表会」を開催しました。

国際公募した5名のテニュアトラック教員が各々の研究について発表を行い、国内の当該研究分野の専門家にコメンテーターとしてアドバイスを頂くことで若手教員の研究を更に発展させるものです。

本学は、平成25年度からの5カ年度、文部科学省 科学技術人材育成補助事業「テニュアトラック普及・定着事業」の助成を受けており、若手研究者の自立した研究環境整備を行うと同時に次世代を担うテニュア教員を育成する、テニュアトラック制度の普及・定着を図っています。

### 文化人材育成プログラム制度の構築



文学部では、平成27年度から社会人等、本学の学生以外の方を対象に、地域文化を担う人材を養成する「文化人材育成プログラム」制度を構築しました。その第一弾として、平成27年4月に、大阪で地域ボランティアに携わっている方々のさらなるスキルアップをめざすとともに、大阪文化に対する理解の深化と発信能力の向上を主たる目的とした「大阪文化ガイド+（プラス）講座」を開講します。

大阪文化を体感できる実践演習形式の授業を中心に、4科目を基本構成とする充実したプログラムを提供し、本プログラムを修了した方には、本学より履修証明書が交付されます。

# 第二期中期計画 重点三戦略の取組み

## Ⅲ 国際力の強化

### (はばたけ)夢基金による海外留学・渡航支援制度開始

(はばたけ)夢基金により、グローバル社会において活躍できる未来にはばたく人材の育成をめざし、海外留学・渡航する学生を支援する海外留学・渡航支援制度を開始し、121人の学生に支援を行いました。

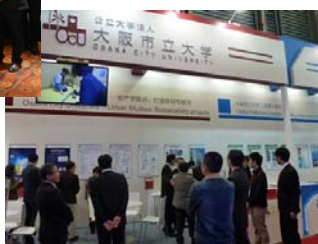


### 上海ホームカミングデー開催 中国国際工業博覧会高校展区への出展、特別参展奨を受賞



平成26年11月5日、中国・上海において、上海ホームカミングデーを開催しました。

また、11月4日から8日まで、中国最大級の国際工業製品展示会に5年連続5回目の出展を行い、日本の大学で唯一「特別参展奨」を授与されました。

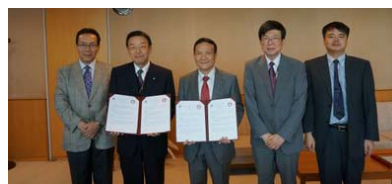


「大阪市立大学の『都市科学』-環境都市と産学官連携-」をテーマに、本学研究者の研究内容や企業との共同研究の成果を、本学在籍中の中国人留学生が中心となってアピールしました。

### フロリダ州立大学 ・ベトナム国家大学経済経営大学と大学間協定を締結

平成26年10月20日にフロリダ州立大学と協定を締結しました。また、11月6日にはベトナム国家大学経済経営大学から学長が来学し協定調印式を執り行い、大学間交流協定は21協定となりました。

ベトナム国家大学経済経営大学とは、大学間協定の他に、商学部・経営学研究科とも部局間協定を締結しました。調印後の意見交換会では、積極的な交流についての提案が行われました。



### メルボルン大学医学部との基本合意書を締結



平成27年2月5日に大阪市役所市長公室にて、本学医学部とメルボルン大学医学部との学生間交流等の促進に向けた基本合意書の調印式を行いました。

大阪市の姉妹都市であるメルボルン市とは、かねてより交流が盛んで、本学も昭和63年にメルボルン大学と学術交流協定を結び、主に研究者間の交流を進めてきました。今回の合意書締結により、医学部間での学生交流や学術交流の促進が大いに期待されます。



# —教育分野での取組み—

## 工学部建築学科の卒業設計が学外コンテストで複数の受賞

平成27年3月2日、建築学科4年生の芥隆之介さんの卒業設計『Sacrifice -人生を、コミュニティを紡ぐ-』が、せんだいデザインリーグ2015卒業設計日本一決定戦「第3回国連防災世界会議 仙台開催実行委員会会長賞」の最優秀賞を受賞しました。また、平成27年2月5日、日本ペイントホールディングス株式会社 リノベーション国際コンペティション「Nippon Paint Young Designer Award 2014」で優勝し、日本代表として臨んだ3月開催のアジア大会でも優勝しました。

一方、建築学科4年生の久保晶子さんの卒業設計『まちを縫う』が平成27年3月9日、10日に開催された「デザイン女子No.1決定戦2015NAGOYAの都市・建築部門賞」でNo.1を受賞し、全体でも3位に入賞しました。

お二人はどちらも愛着のある出身地を題材に、敷地のリサーチから始め、土地の特性を活かした設計で作品を完成させました。4月からはお二人とも修士課程にすすむ予定です。



## 三商大ゼミ討論会

平成26年11月29日、30日に、第64回三大学学生研究討論会（三商大ゼミ討論会）が大阪市立大学で開催されました。三大学とは、大阪商科大学・神戸商業大学・東京商科大学の伝統を引き継ぐ大阪市立大学・神戸大学・一橋大学のことです。

法学部の刑法グループは、先生が考えた事例問題に沿ったゼミごとの解答を基に、学生たちだけでなく先生も参加して討論を行いました。経済学部・商学部の討論会では各ゼミが研究成果を披露しあい、盛んな質疑応答が行なわれました。

2日間で43グループの参加があり、研究成果の披露・討論を通じ大学間での親交を深め有意義な時間となりました。



## 理系学舎整備事業（H22～26）の完了



教育、研究環境の充実を目的とした理系学舎整備事業における、理学部本館3期等（4階建、延床面積約7,070㎡）の耐震改修が、平成27年3月に完成したことにより、平成22年度より進めてきた理系学舎整備が全て完了しました。中庭の整備も終え、昨年完成した「けやき通り」とともに、緑を感じ、楽しく歩き、集える空間に生まれ変わりました。

# —研究分野での取組み—

## 咲洲地区スマートコミュニティ実証事業

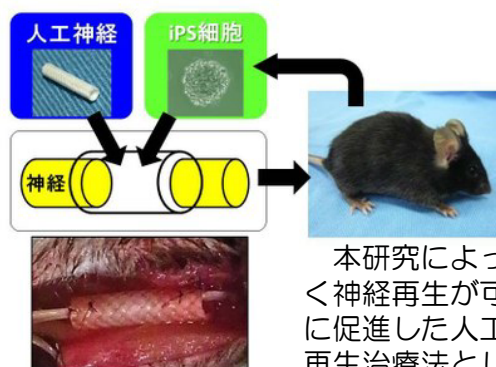
平成26年8月12日より「咲洲地区スマートコミュニティ実証エリア」であるATCと大阪府咲洲庁舎間に構築した「サーマルグリッドシステム」の実証を開始しました。

工学研究科 中尾正喜 特命教授等のグループが研究開発したこのシステムは、各負荷（空間に必要な空調の冷温熱）と各熱源間を自在に熱融通（サーマルルーティング）し、負荷の要求に応じた異なる温度の冷温水を運ぶ（熱パケット）こととあわせて、空調の高効率化を実現する画期的なシステムです。

このシステムにより、一般的なビルで4割程度の省エネルギー化と、設備導入・運用のコスト負担を劇的に改善することが期待されます。



## iPS細胞を用いた人工神経の長期有効性と安全性を実証



医学研究科 中村博亮教授、上村卓也病院講師らのグループは、iPS細胞を末梢神経の再生に初めて応用し、iPS細胞と人工神経を組み合わせ、マウスの坐骨神経欠損部に移植を行い、神経再生の長期有効性について世界で初めて明らかにしました。

本研究によって、体の他の部位の正常神経を犠牲にすることなく神経再生が可能となり、iPS細胞の併用によって神経再生がさらに促進した人工神経は、今後、末梢神経欠損に対する新しい神経再生治療法として期待されます。

## 発毛促進の再生医療に関する共同研究を開始

医学研究科 皮膚病態学の鶴田大輔教授、および吉里勝利客員教授は、レジエンス株式会社とともに発毛促進の再生医療に関する共同研究を実施し、in vitro（生体外）で高機能な毛包[図1]を作製・評価して、最終的に男性型脱毛症の治療法の開発をめざします。

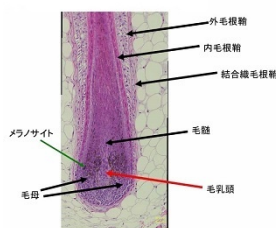


図1：ヒト毛包

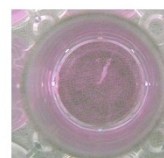


図2：ヒト毛包器官培養

## アルツハイマー病の新しい治療薬となる抗体を開発

医学研究科 脳神経科学の富山貴美准教授らのグループは、アルツハイマー病の新しい治療薬となる抗体を開発しました。これまでは主にアミロイドβを標的とする薬が開発されてきましたが、臨床試験で有効性が確認されたものはまだありません。

今回新たに開発した抗体は、過剰にリン酸化されたタウに結合してこれを除去するというものです。アルツハイマー病の治療は今後、アミロイドβを標的とする薬とタウを標的とする薬の併用療法が主流になってくるものと思われます。今回開発された抗体は、タウを標的とする薬の有力なプロトタイプになると期待されます。

# —地域貢献分野での取組み—

## 第11回高校化学グランドコンテスト（化学の甲子園）開催

平成26年10月25日、26日に、大阪府立大学、読売新聞大阪本社との共催で、全国の高専生等を対象とした「第11回高校化学グランドコンテスト」最終選考会を開催しました。

出場は全国から過去最多となる70チームのエントリーがあり、海外招聘校として台湾とシンガポールの高校生も出場し、国際色豊かな大会となりました。

また、本学理学研究科中沢浩教授は、平成27年1月7日に、高校化学グランドコンテストを通じた化学の普及ならびに国際化への貢献が評価され『第39回日本化学会化学教育賞』を受賞されました。



## 大阪市都市整備局と住まい・まちづくりに関する連携協定

### 大学特別連携企画



大阪市立大学・大阪府立大学が協働で採択された文部科学省の地(知)拠点整備事業「大阪の再生・復活と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」では、近代建築や長屋といった建築ストックや、地域の歴史文化的資源、オーラルヒストリーといった都市の地理・空間的資源の魅力や潜在力を読み解き、再発見し、それらを生かした都市再生のあり方を提案して、社会実験として実践する取り組みを進めています。

### みる、ふれる

大阪市立大学主催

大阪市立大学キャンパスツアー ～1号館から旧図書館書庫まで～

日時 | 10/31(金) 14時～15時30分

定員 | 20名 要申込 ※Webフォームまたは往復はがき(応募多数の場合は抽選)

参加費 | 無料

【案内人】倉方俊輔さん 【主催】大阪市立大学

★集合場所等詳細は、別途、参加者にお知らせいたします

日本初の市立大学として開学した大阪商科大学(現・大阪市立大学)は、御堂筋線や大阪城天守などと並ぶ、大正時代の一大事業。前例の無い構想を反映するかのよう、校舎群も戦前の大学として異例にモダンなデザインです。現役の教室から、一号館屋上や旧図書館書庫など普段使われていない部分まで、見所を巡り、解説します。ご案内は、建築史家で大阪市立大学大学院工学研究科准教授の倉方俊輔さん。どなたでも参加いただける特別な見学会です!

大阪市立大学 杉本キャンパス

| 所在地 | 大阪府大阪市住吉区杉本3-3-138 | 建設年 | 1933～1935年 | 設計 | 大阪市土木建設課(伊藤正文)

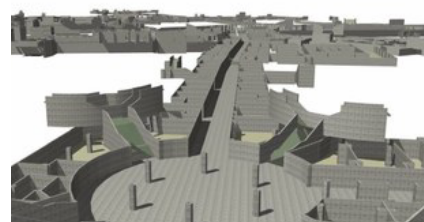


大阪市の再生・活性化に資する住まい・まちづくりにおける取り組みの推進と、大阪市立大学の教育・学術研究機能の向上を目的として、平成26年10月28日に大阪市都市整備局と「住まい・まちづくりに関する連携協定」を締結しました。

また、本連携協定に基づく取り組みとして、平成26年10月30日から開催された「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2014」において、大学特別連携企画プログラムが展開されました。

## 浸水避難計画のための大阪梅田地下街の人・都市構造の把握

工学研究科の谷口与史也教授らのグループは、大都市ターミナルの地下空間のひとつである大阪市北区の梅田地下街(東西約1.1km 南北約1.1km)を対象として、地下構造の空間情報を統合して海拔基準との関係を今回初めて明らかにし、洪水や津波による浸水被害把握のための地理情報の基礎となる3次元データを構築しました。加えて、津波災害時の浸水対策および避難計画の提案のために、地下街の各エリアにおける避難時間と津波到達時間との関係を数値シミュレーションにより明らかにし、避難行動の安全性の評価を行いました。



# —医療分野での取組み—

## 先端予防医療部附属クリニックMedCity21の開設

先端予防医療部附属クリニックMedCity21は、公立大学法人としては全国初の健診施設であり、“未病”段階で疾病を留める先制医療を実施することを目的としています。当施設では人間ドックを通して疾病の早期発見・治療を実現するとともに、高度な医療機器と医学部附属病院との連携で、専門性の高い健診・検査を実施しています。



さらに医学部附属病院が有する研究・解析力により健康（未病）状態から病気へ移行する因果関係を探り、それに基づく新診断法、治療法やバイオマーカーを開発し予防医療の推進に寄与します。

また同時に人間ドック等受診者の同意のもと健診データ、生体試料、遺伝子情報などを貯蔵管理するバイオリポジトリの整備等を目的とする先端予防医療研究センターを開設しました。

## 脳卒中患者受け入れの開始

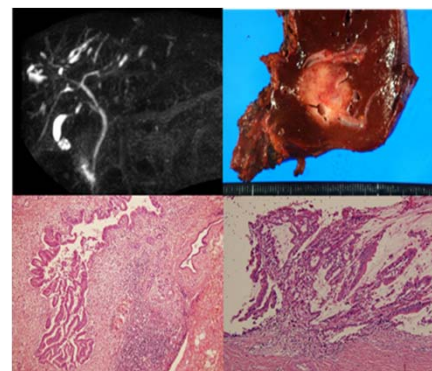
脳卒中は日本における死因の第4位であり、死亡に至らない場合でも要介護となる原因としては最も高いものとなります。大阪市では毎日数十名の方に脳卒中が発症しており、市内の病院にて治療を行っていますが、受け入れ病院が限られているため、搬送先に苦慮する場合があります。

一方、脳卒中の2/3以上を占める脳梗塞の治療として、血栓溶解療法、血管内治療などの最先端の医療により劇的に予後が改善してきましたが、多くの脳卒中の患者は心臓、呼吸器、腎臓などに合併疾患を抱えていたり、妊娠などのハイリスクを伴ったりするため、しばしば総合的な医療を要します。

こうした現状から医学部附属病院では最先端の脳卒中医療を市民に提供することは喫緊の課題であると考え、脳卒中患者受け入れを開始しました。

## 職業性胆管癌臨床・解析センターの開設

厚生労働省により労災認定された職業性胆管癌について、医学部附属病院では関西で唯一の検診事業指定病院として検診業務を行ってきました。この事業では平成26～28年度にかけて厚生労働省より労災疾病臨床研究事業費補助金「職業性胆管癌に対する総合的診断法の確立」として補助金を受けており、このたび職業性胆管癌患者の診断、治療やその成績と検診結果の集積、解析を円滑に進めるため、「職業性胆管癌臨床・解析センター」を平成27年2月1日に開設しました。



◇職業性胆管癌画像◇

今後、健康管理手帳交付者の検診や職業性胆管癌患者の治療に当たるとともに、その成績の集積や解析から、職業性胆管癌の診断方法、適切な治療法および病態の解明をめざしていきます。

# 大阪市立大学夢基金

大阪市立大学は、広く学内外の皆様からのご支援を仰ぎ、「大阪市立大学夢基金」を設立し、より高度な教育・研究の推進等をすすめています。

皆様よりいただいた寄附金は、大阪市立大学夢基金運営委員会の審議の下、基金の一部は「積立金」として運用し、一部は「事業資金」として単独または本学の他の資金と併せて下記事業に活用させていただきます。

## ■「グローバル人材の育成」

国際的な知的インフラ、知的拠点をめざして

## ■「キャンパス施設・環境整備」

快適な環境づくりをめざして

## ■「教育・研究・医療環境の充実」

より充実した教育・研究・医療環境づくりをめざして

お問い合わせ先  
大学サポーター支援室  
(大阪市立大学夢基金)  
TEL 06-6605-3415  
E-mail: yumekikin@ado.osaka-cu.ac.jp  
<http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/fund>

平成27年4月より大阪市の「ふるさと寄附金」メニューに「市立大学振興関係」が加われました。大阪市内に納めていただいた寄附金は、大阪市立大学の学生ホールの整備およびグローバル人材の育成事業に役立てられます。

